

新住園島

令和6年度【第6号】
2024年9月1日発行
八頭町役場商工観光室
(0858-72-0144)

—八頭町地域おこし協力隊活動の現場から—

因幡船岡駅納涼祭

7月は少しでも八頭町のことを知ろうと、町内のイベントに毎週のように参加しました。その際、町民の皆さんの地元愛の強さを実感しました。因幡船岡駅でおこなわれた納涼祭では、日中雨が降っており、内心「お客さんがいないかも」なんて思いながら会場へ向かいましたが、心配をよそに会場にはたくさんの方々がいて、みなさん笑顔でイベントを楽しんでいました。経験上、雨天のイベントでこんなに多くの地元の方が集まっているのは見たことがありません。雨天イベント失敗または中止という私の固定観念が見事に覆されました。なぜこんなに人がいるのかと観察していると、来場者の多くが同伴者だけではなく、地域の方とコミュニケーションを取り合い、テント内の席を譲り合いながら楽しんでいました。その様子を見て、八頭町のみなさんは地元の人や地元にあるものを大事にする、相手が大変な状況だからこ

そ、自分がまず行動して応援するという地元愛の気持ちを持つておられる方が多いのではないだろうかと感じました。そして、この気持ちは八頭町のもので、すごい武器ではないかと思えました。地元愛の気持ちを大切に、私も少しずつ町に馴染んでいきつつ、八頭町の更なる魅力を発見していきたいなと感じました。

杉川藍月



親子で船岡納涼祭を楽しみました！

インターハイ2024 ホッケー北九州大会

今年もインターハイ(会場は長崎県)が7月末から開催されました。私は八頭高ホッケー部のメデイカルトレーナーとして帯同しました。今回は優勝も狙えるほどメンバーが揃っており、仕上がりがばっちりでした。初戦、2回戦と全国優勝経験もある伝統校に勝利し、準々決勝でお隣の島根県・横田高校と対戦しました。昨年末の全国大会の決勝も、今年のインターハイ予選でも負けており、選手たちにとって超えたい壁です。自然と力が入り、ピリピリとした空気が漂いながら試合が始まりました。試合は相手に点を取られるも、取り返すという展開が続きましたが、残り5分でリードを許し、そのまま逆転できずに負けてしまいました。やはり横田高校は強くそのまま優勝しました。生徒にはこの敗北をぜひ次に活かして頑張ってもらいたいと思います。

岡田悠作

試合前の円陣



インターハイ 2024 ホッケー北九州大会準々決勝



八頭町で新しいつながり

今月は先月掲載したイベントに関するお知らせを予定しておりましたが、諸事情により開催が難しくなりました。しかし、新しい形での開催を模索し、皆様に楽しんでいただけるよう準備を進めているところです。失敗から得られる経験と学びは多くあります。現代社会は情報が溢れています。目先の情報で可否を判断することも重要ですが、信念を持って挑戦し続けることも大切だと私は考えています。

7月は県外の方に八頭町を案内することが多い月でした。私にとって「農」は職業ではなく、暮らしであり生き方そのものです。若い人の中には自然と共に生きる魅力や地方の暮らし、農的な暮らしに関心を寄せる方がたくさんいます。その方達を全国の農家さんに紹介する仕事をされている方に町内をご案内しました。この小さな一歩が新たなつながりを生み出し、今ある大切なことを守る一助になればと願っております。

真柳加奈子



スイカ栽培にも挑戦



アグリナジカン山下さんをご案内

域内保全と域外保全

種を絶滅から守る方法として、域内保全と域外保全の2つの方法があります。域内保全は生き物の生息地を守り、その場で保全します。対して域外保全は水族館や動物園などで飼育したり、外来種の脅威等がない別の場所に新しい生息地を作って守る方法で系統保存とも

呼ばれます。もしも野生絶滅したとしても、域外保全が行われていたら再導入も可能です。生物多様性保全はこの両軸で進めていくことが大切です。

イメージしやすい域内保全ですが、近年は環境の悪化が激し過ぎて次々と地域絶滅が発生しています。もちろん地域絶滅が進めばその内、生き残っている場所がなくなり、絶滅してしまいます。本来ならば水族館や行政など公的な機関が行う域外保全ですが、最早手が回らなくなってきました。そこで私も含め在野の人間も様々な方法を用いて系統保存を行っています。私の場合は組み立て式のプールを用いて希少な水草や魚類を繁殖させ、飼育しています。ただ飼えばよいわけではなく、近交弱勢を避けるため、様々な論文を参考にしながら遺伝的多様性を失わない最低限の数を維持しなければなりません。小さな魚ですら数十ペアが必要で、次世代は数百匹になります。この数年で生息地で絶滅し、私の庭だけで生き残っている系統もいたりします。かなりの空間を取る蝶なんか

はさらに大変で、友達は絶滅寸前の蝶にほぼ家を占領されています。これを絶やせば地域絶滅というのは個人には荷が重いですが、そうも言っていられません。なんとか今を乗り越え、未来は域内保全で十分みたいな世の中にしていきたいですね。

小宮春平



↑組み立て式プールで栽培中の希少な水草。交雑や外来種の侵入が起こらないよう産地ごとに管理する必要がある。



↑域内保全で増えつつあるタガメ。場を整えれば増えるのは理想だが、限界まで追い込まれている種類も多い。

担当課より 隊員の活動は農業をはじめ空き家対策や生物保全、体づくり等多岐に渡ります。隊員同士のおしゃべりで新たなアイデアが生まれることもしばしば。何事も否定から入らない、アイデアを相談したくなる。そんな担当者でありたいと思います。(田淵)

協力隊からのお知らせ インスタグラム【 yazu_life 】で八頭の魅力を発信しています！

八頭町役場ホームページからカラーでご覧いただけます。